

事業所名 放課後等デイサービスまつほっくりハウス

支援プログラム (参考様式)

作成日

令和7年

1月

10日

法人(事業所) 理念	家庭や学校とも違う安心できる場所で子供たちの活動を通して、「自分の気持ちを整える」「他者との関係を築く」等人格的な力、生きる力を育てる。		
支援方針	子どもたち一人ひとりの個性を大切にしながら、こたわりを認め、寄り添いながら家庭と学校と職員と力を合わせて、子供たちが安心して活動できる環境を作りながら支援していく。		
営業時間	通常日 お休みの日	11時 9時	30分から 19時 30分まで
		支援内容	送迎実施の有無 あり なし
健康・生活	自ら健康で安全な生活を作り出すことができるように支援する。常に、体温や体調の確認などを確認する。安心して利用していただくために、意思表示が困難な子供については、子供のサインに気が付けるようにきめ細かに観察する。日常生活に必要な睡眠、食事、排泄の生活のリズムを身につけるよう支援する。身の回りを清潔にすることで、食事や衣類の着脱等、基本的な生活に必要な技能を獲得できるように支援する。様々な遊びや活動を通して、学習できる環境を整える。また、障がいの特性に配慮して、自分でできることを増やせるように本人にわかりやすく構造化する。		
運動・感覚	身体の使い方や姿勢の保持や上肢・下肢の動作の習得や体幹を鍛えるよう支援します。(机と椅子の調節、音楽に合わせて身体を動かす遊びや運動、パソコンや平均台やボール遊びでの運動、リズム運動、ラジオ体操等) 感覚過敏の子供には、イヤホンの活用したり、個室に移動したり、環境調整をして柔軟に対応する。		
認知・行動	障がいの特性から、認知の偏りがあるため、簡単なことからスモールステップで支援する。毎日のスケジュールを確認したり、タイムテーブルによる時間帯別の活動を教えながら支援する。粘土やスライムなどを使い、物質の変化と感覚や触覚を理解させる。支援員が手本示したり、声かけで行動に移したり、絵カードを選び、要求を伝えて行動を実現させる。時計やタイムタイマー、砂時計など、具体物を見せて行動を切り替えさせる。		
言語コミュニケーション	コミュニケーションには、環境やお友達や支援員との関係性も重要であるため、子供が意見を出しやすい配慮をしながら支援する。個人または小集団での発語や読み書きの向上に努める。言葉はもちろん指差し、ジェスチャー、身振り、手話、指文字、サイン等を活用して、その子にあったコミュニケーションの方法を身につけられるように支援していく。支援する側が子供のコミュニケーションの幅をせまくすることのないように支援していく。		
人間関係 社会性	子ども達が、基本的な信頼感を持つことができるように、環境に対する安心感、信頼感、人に知する信頼感、自分に知する信頼感を育む支援を行う。まず、支援員が子供に寄り添い、共感と共有を心がけて接しながら、信頼関係を築いていくようにしていく。感覚・運動遊びから役割分担のある遊びなど、協同遊びでお友達との良好な関係づくりに取り組みます。遊びを通して、一緒に話したり、活動することで、やりとりの中で、お友達の良さに察して、楽しみながら社会性の発達を支援する。		
家族支援	本人の様子について、様々な機会や面談等を通して、情報共有する。	移行支援	保護者の同意に基づき、必要に応じて、学校などを訪問して、具体的な様子や関わり方を共有したり伝えていく。
地域支援・地域連携	外での活動を通して、地域のひととの交流を楽しめるように支援する。(地域の公園での運動遊び、遠足、福祉施設や作業所へのおでかけ)	職員の質の向上	事業所内研修、個別の支援ケース会議、研修の中での外部研修報告会を行い、情報交換を行っている。
主な行事等	通常の活動の中で、季節に合わせて行事を取り入れて支援を行っている。1月(地区の神社へ新年の初詣・書き初め)2月(節分の豆まき)3月(おひな祭りのお菓子作りや工作)4月(地域の名所に花見に行く)5月(子供の日の工作)7月(七夕飾り工作)7月・8月(プールと水遊び)9月(お月見団子づくり)・防災センター見学)10月(お芋ほり)・ハロウィンパーティー)12月(クリスマス会)毎月、お子様のお誕生月に合わせてお誕生会をしている。毎月のカレンダー作り、習字、音楽、造形、絵画、英語を計画的に活動内容に入れている。		